

統計

○北米合衆國に於ける鉄力鋸輸出に就て

同國內外商事局發表の統計に従へば同國に於ける鉄力類の輸入額は本年六月三十日に終る會計年度内に於て其の最高記録を超過し一九一六年同上の五億一千六百二十六萬封度弱及一九一四年同上の一億五百九十萬封度に對し總計五億二千八百八十六萬封度強に達し同國鉄力輸出の最初の年たる一八九八年の二萬封度強と對比せば實に驚嘆に値すと云ふを得べし。同國鉄力鋸の顧客は全世界を通じて各地に點々として七十五地方に達し本年に至り加奈太に一億三千三百六十五萬封度亞爾然丁五千三百三十萬封度日本四千六百五十萬封度英領印度三千九百八十萬封度蘭領西印度及ブラジルに各三千二百二十萬封度支那三千五十萬封度香港二千二百五十萬封度英國一千九百五十萬封度伊太利一千八百六十萬封度海峽殖民地一千二百七十五萬封度ウルグアイ一千百五十萬封度佛蘭西一千六十萬封度玖馬九百萬封度墨其西哥四百三十五萬封度及露西亞の四百二十萬封度等の輸出をなせり。

上記諸外國に多量の輸出をなすのみならずアラスカに總計三千八十三萬封度強及ハワイに一千七百九十五萬封度の

積荷なし其の外アラスカに主に鉄力罐及蓋等よりなる加工品價格金三百九十萬圓の積荷をなしたりと云ふ。

○瑞典國に於ける鐵鑛積出

次表に示さるゝ如くナルビツク及ルーリア積出の鐵鑛石は一九一六年に至り多少減少の傾向を有せり。

積出港名	一九一四年佛噸	一九一五年佛噸	一九一六年佛噸
ナルビツク(諾威)	二、三一七、〇一四	一、四二三、九〇四	一、一〇八、五四二
ルーリア(瑞典)	九、九三、五六五	二、一六〇、九一〇	一、五五九、九九三
合 計	三、三一〇、五七九	三、五八四、八一四	二、六六八、六三五

○ブラジル國に於ける滿俺鑛輸出(一九一七年)

最近五年間各一月より六月に至る上半期同國より輸出せられたる滿俺鑛總量は次の如し。

一九一七年	二四五、〇八八噸	一九一六年	二四〇、〇九〇噸
一九一五年	一〇二、八七〇噸	一九一四年	八五、五〇〇噸
一九一三年	四九、六〇〇噸		

○北米合衆國銅產出(一九一七年)

同年一月より六月に至る各月平均銅產出額は四萬五千噸にして一九一六年同期各月平均二萬七千二百八十噸弱一九一五年同上二萬三千〇三十噸弱一九一三年同上三萬一千〇九十噸及最近十ヶ年同上平均二萬六千二百二十噸と對比せらる。

○北米合衆國に於ける新發見鋼磁石に就て

大戰開後始タングステンの價格漸次騰貴せるを以て從來用ゐられたる鋼よりも安價にして且永久磁石として一層有

効なるものを造らんと努力せられつゝありしが最近の報導によれば新発見のものにして從來のものと全々効力同等なる〇・六パーセントの炭素鋼にて約二パーセントのクロミウムを含有するもの目下米國に於ける各電氣爐にて製造せられつゝありと云ふ。磁氣的に永久と云ふ點に於ては殆どタングステン鋼磁石と同等にして多少殘溜度の少なきものなりと云ふ。

○北米合衆國鐵鑛產出(一九一六年)

同國地質調查局發表の統計表に據れば一九一六年同國に於て採掘せられたる鐵鑛石は總計七千五百十六萬七千六百七十二噸に達し一九一五年の同上を超過する事一千九百六十萬噸にして同國前古未曾有の產出額なりと云ふ。一九一六年に於て同國各鑛山より搬出せられたる總量は約七千七百八十七萬噸にして前年度に比し約四割の増加なりしと云ふ。但上記は滿俺含量五パーセント以下のものゝみなしと云ふ。

○印度產銑鐵に就て

前タクチ鐵工所(印度、サクチ)總支配人バートン。アー。ショーバー君の言ふ處によれば印度產銑鐵はピッツブルグ州にて產出せらるゝ銑鐵より安價に桑港に於て賣捌さ得ると云ふ。

○ブラジル國に於ける鐵鑛石に就て

既に知られたる如く同國は世界に於ける最大鐵產國の一に

數へられ且つ同國殆ど各州共未だ利用せられざれども偉大なる水力の便を有するを以て上記の豐饒なる鐵鑛は電氣熔鑛爐により所理せらるゝに至るならん(因に同國水力豫定地の内六つは世界最大のものならんと云ふ)石油採掘も目下同國に於て發展の中途にあたるを以て小規模の熔鑛爐に利用せらるゝに至るべし。之れを要するにブラジル國は遠からず軌條造船其の他萬般工業用鐵鋼を自給自足するに至るならん。

○獨逸最近鐵工業に就て

左記は最近發刊の獨紙の抜粹にして聊か參考までに載せり。

鐵 及 鋼

本年九月下旬鋼鐵企業組合理事者は會合して今後に於ける半精製鋼及型鋼の賣價に關し協議せり。之は値増に對し官憲の許可し得る事を證明するものなり。

又新規設立の鋼棒企業組合内に輪鐵を包含せんとせしもウエストハアリア輪鐵組合の會員は各自の一般的利益保護に對し同組合を持続せん事を決議せり。

貨車製造業組合は夏季契約に關し中央鐵道行政部と協議中にして最後の二三の註文に對し價格に不満を抱きをれるも目下唯價格が豫算通りか又は次位の材料を使用して折合を保つかの問題となり居れり。

最近獨逸機械工具製作所協會の會員の如く新規の一團體

形成せられ獨逸精巧工具聯合組合なる名稱を附し同國精巧工具の主要製作者は同組合に入れり而して此の組合の目的たるや經濟的及商業政略上の事項に於て會員を統べ會員交互の經驗を交換し仕事上の問題の取扱を均等にせん事なり云ふと。

○加奈太オントリオ州金屬產出(一九一七年上半年)

次表は本年上半期オントリオ州に於ける數種金屬の產出高を示すものにして、製鍊所、精成所及各種金屬鑛山より鑛務局に對する報告に由り作成せるものにして去年同期產出高と對比せらる。

鐵石名	一九一六年	一九一七年
鐵鑛(輸出せられたるもの)	一九一六年	一九一七年
銑鐵	二四、三三二	二四、三三二
銑鐵	四〇、九六八	四〇、九六八
モリブデン	一二、六三一	三六、七七七
鉛	一二、八一七	九一二、九三四
コバルト(金屬)	一二、九三二	一六二、二五〇
ニッケル(同)	四一〇、四〇八	四五、八六四
酸化ニッケル	九二二	五、四九五
酸化コバルト	二〇、六五一	一五三、四九八
ニッケル、コバルト混合物	一一、四二六	一二二、〇七六
銅鑛石	二〇、二三〇	一、五四三
ニッケル(マット)	一一、四二六	二〇、三八一
銅(マット)	二〇、六五一	二〇、三八一

但し銑鐵はオントリオ鐵鑛のみより作成せられたり一九一六年に於ける鐵鑛石輸出は不明なり。

○全世界銅產出高(一九一六年)

ブダベスト紙によれば全世界銅產出高は一九一六年百三十九萬六千六百佛噸一九一五年百六萬一千三百佛噸一九一四年九十二萬三千九百九佛噸一九一三年百六萬六千佛噸にして。此の內主要產出國に區分すれば

國名	一九一六年佛噸	一九一三年佛噸
北米合衆國	八八〇、八八〇	五五六、〇〇〇
日本	九〇、〇〇〇	七三、一〇〇
露西亞	一六、〇〇〇	三四、三〇〇
墨西哥	五五、一〇〇	五八、三〇〇
濠州	三五、〇〇〇	四七、三〇〇
獨逸	二五、三〇〇	三五、〇〇〇
西班牙	五〇、〇〇〇	五四、六〇〇
葡萄牙	六六、五〇〇	三九、四〇〇
智利	六六、五〇〇	三九、四〇〇

然れども獨逸は戰後產出高減少したる筈なるに上表には然らざる様なり居れり。

○伊太利國金屬產出高(一九一六年)

左記は一九一六年同國數種金屬の產出高を示すものにして同國官憲の統計表に據れり。

鐵石名	一九一五年佛噸	一九一六年佛噸
無烟炭	九、三一四	一八、五四四
褐炭	九三九、〇二七	一、二八二、八一九
鐵鑛石	六七九、九七〇	九四五、六〇四
黃銅鑛(含黃銅)	三六九、三二〇	四一六、二九〇
滿僊	一二、五七七	一八、一四七
鉛鑛(含銀及亞鉛混合のもの)	四一、八四〇	三九、五六〇
亞鉛鑛	八〇、六二二	九四、〇四三

次表は本年上半期の産出高にして昨年同期と對比せらる。

鐵石名	一九一六年佛噸 上半期	一九一七年佛噸 上半期
無煙炭	九、二七二	一二、四五〇
褐炭	六四一、四〇九	六九九、四二八
鐵石	四七三、三〇二	五二四、四九九
黃鐵礦(含黃銅)	二〇五、一四五	二六八、七八六
滿鐵礦	九、六七三	一〇、八五〇
鉛礦石(含銀及亞鉛混合)	一九、七八〇	二〇、二一〇
亞鉛鐵礦	四七、〇二一	四一、九五〇

○英國に於る製鋼業 (在ロンドン總領事報告)

一千九百十六年英國鐵鋼業に取りて最も顯著なる事實は英國及びその聯合國の軍需に應ずるの必要上、英國政府が斯業に對して施したる措置にありとす。

軍需額増加し供給需要の増進に伴はざるや、英國政府は中立國に對する鐵鋼の輸出を禁ずると共に、國內一般消費及び聯合國への輸出に對し嚴重なる制限を加へたり。

其結果、直接間接軍需品の製造に従事せる者は相當需額の分配を受けたりと雖も、市場の一般的需要に對しては銑鐵及鐵礦の供給、殆んどその跡を絶つが如き狀態となりたり。

且つ又需要供給の均衡を失したる結果、市價の奔騰を見るに至るや、政府は内地向最高相場を限定し、投機取引を禁ずるの手段をとりたり。

昨年度に於けるクリーブランド銑鐵取引は、全然軍需省監督の下に置かれ、軍需品製造以外の國內一般的需要及聯合國への輸出に對し嚴重なる制限を加へたるが、要するに是れ供給需要に適應する能はざりしが爲なり。

而して這般需給の不適應は戰前一時市場在荷の過多に失したるを調節せんが爲めに生産に制限を加へたる事ありたる以來、千九百十四年下半年及び千九百十五年に於ける需の減少、鐵礦供給の不充分勞働者の減退及一般商業界不振の影響に外ならず。

而して之を作業せる熔鑛爐の數に徴するも千九百十四年末に於てはその數七十三なりしが、千九百十五年末には僅かに六十七なりき。

千九百十六年に入りては、軍需の増加に伴ひ、極力生産高の増加を計りたりと雖も勞力及鐵礦を得るに困難なりしが故に、年末に至りて漸く七十六(その中クリーブランド銑鐵熔爐三十ヘマタイト熔爐三十四その他鐵材熔爐十二)を算するに至りたるに過ぎず。

此の如くにして銑鐵生産高は約三百二十餘萬噸にして、千九百十五年に於ける二百八十五萬噸に比し、約三十萬噸の増加を示して居ると雖も之を千九百十四年に比すれば十二萬噸、千九百十三年に比すれば六十萬噸の減少なり左に千九百十年以後の銑鐵生産高を示すべし。

一九一〇年	三、六七九、四七三噸
一九一一年	三、七〇三、二三〇
一九一二年	三、三五七、七〇八
一九一三年	三、八六九、〇〇〇
一九一四年	三、四二〇、〇〇〇
一九一五年	二、八九二、五〇五
一九一六年	三、二〇〇、〇〇〇

(附記) 一九一六年銑製生産豫想高増加の大部分は Hematite にして生産豫想高を分別せばクリーブランド銑鐵百三十萬噸 Hematite 其他鐵材百九十萬噸なりとす

年初に當り内地向にも輸出向にも需要増加の形勢顯著なりしに拘らず生産減少の兆ありしを以て取引相場は漸次昇騰し二月二十二日に至りては現物九十八志四片半を報ずるに至りたるが三月二日政府は樞密院令を以て第三號銑鐵最高内地相場を八十二志六片に限定すると共に投機取引を禁止一切の投機取引關係は五月三十一日までに仕末を付くべきことを命じたり此の如く内地取引相場は限定せられたりと雖も輸出向相場に對しては何等制限を置かれざりしを以て現物相場は愈騰貴し三月平均相場は八十九志なりしが五月には九十四志と爲り六月には百志と爲れり又中立國に對する輸出禁止の結果輸出は殆ど佛及伊に限れるが如き状態を呈し七月以後年末に至るまでは右二國に對する船渡相場約九十七志六片なりしが現物に對する需要頗る激熾にして中には百二志六片を拂ひし者もありたりと傳へられ千八百七十三年に於ける第三號百二十志を除き他に比類なき高値

を示したるが千九百十六年に於ける平均市價は八十二志十片十八にして千九百十五年の六十志八片に比し約二十二志二片十八、千九百十四年の五十一志一片八十七に比し三十一志八片三十一、千九百十三年の六十志〇片四十六に比し二十二志九片七十二の騰貴なりき左に千九百十六年中第三號 G M B の各期平均市價を掲げ前年の其れに對比すべし。

	一九一六〇片	一九一五〇片
自一月至三月	七二、一一、二二八	五二、〇五、九五
自四月至六月	八一、〇五、九六	五八、〇七、三〇
自七月至九月	八七、一一、三一	六四、〇〇、五四
自十月至十二月	九八、〇〇、一七	六七、〇四、一六

千九百十六年銑鐵輸出高は六十萬九千三百噸にして千九百十五年に比すれば二十二萬六千噸、千九百十四年に比すれば十萬九千噸の増加なり然れども英本國に於ける諸國への出荷高に至りては一萬八千噸に過ぎずして千九百十五年に比すれば二萬七千二百噸の減少、千九百十四年に比すれば四十一萬八千二百噸の削減を示せり蓋し聯合諸國に對する輸出を可能ならしむる目的を以て蘇格蘭地方への出荷に制限を加へたる結果とす而して中立國への輸出は五月に至り禁止せられたり又輸出額の増加は佛國への輸出激増したるに職由す、千九百十六年クリーブランド地方よりの銑鐵輸出高を示せば左の如し。(單位噸)

輸出先	一九一六年	一九一五年
和蘭	三、二一〇噸	一〇、九〇二噸
白耳義		
佛蘭西	四二九、九六二	一〇八、四八〇
伊太利	七〇、三五五	七一、五七一
支那及日本	二七、九六七	三二、九六九
瑞典及諸威	二八、九四八	一〇一、三〇九
米國	二〇、六五〇	一四、一二〇
威爾斯	一、一三六	
蘇格蘭	六五〇	五、七四二

開戦後銑鐵の在荷は漸次増加し千九百十五年五月に至り十五萬二千九百噸を算したるが爾後月を逐ひて減少し千九百十六年一月には九萬五千八百噸と爲り十二月に至りては僅に三千七百噸を算したるに過ぎず左に一月以後銑鐵在荷減少の趨勢を示すべし(單位噸)

一月	九五、八五四噸	七月	二三、八〇〇
二月	八二、〇一七	八月	一六、〇三五
三月	五七、三一〇	九月	一二、五九〇
四月	四〇、四〇五	十月	四、四三四
五月	三三、二二六	十一月	四、一七三
六月	二九、四七〇	十二月	三、七三八

千九百十六年英國に於ける鐵鋼製作工場は總て英國及聯合國政府用軍需品以外の一般的需要に對しては殆ど其供給を絶ちたるが如き狀態を呈したり造船材料に致りては佛國に輸出せられたるもの未曾有の巨額なりしと雖も之を前年に比すれば輸出總額に於て十三萬二千九百噸の減少を示せり鐵鋼製品の市價は一月内地向最高市價の設定あり四月及

十一月に於て該最高市價の改正ありたり左に一月及十二月に於ける造船材料の市價を示すべし。

	一九一六年	一月同十二月
造船用鋼板	一、〇〇〇	一、〇〇〇
同 鐵板	一、〇〇〇	一、〇〇〇
製鐵用鋼板	一、〇〇〇	一、〇〇〇
鋼 單 葉	一、〇〇〇	一、〇〇〇
同 複 葉	一、〇〇〇	一、〇〇〇
鋼船用角	一、〇〇〇	一、〇〇〇
鐵船用角	一、〇〇〇	一、〇〇〇
鐵 棒	一、〇〇〇	一、〇〇〇
鋼 桁	一、〇〇〇	一、〇〇〇
重鋼「レール」	一、〇〇〇	一、〇〇〇

徴兵制度の實施に依る勞働者の減少に加ふるに補缺勞働者は採鑛上の經驗乏しきものなるが故に千九百十六年クリーブランド鐵鑛產出高は千九百十五年に於ける四百七十四萬六千噸に比し約五十萬噸の減少にして千九百十四年に比すれば百三十二噸、千九百十三年に比すれば百六十九萬噸の減少を示せり而して本年末作業中の鐵鑛山は其數二十にして前年末と同數なるが就働者數は七千六百七十九人にし千九百十五年末に比し百十六人を減じたり而して鐵鑛の山渡平均相場は約七志にして昨年に比すれば六片千九百十四年に比すれば二志七片千九百十三年に比すれば二志の騰貴なり外國產鐵鑛のミドロスポロー輸入高は二百七十萬噸にして千九百十五年に比すれば三十一萬噸千九百十四年に比すれば三十九萬噸の増加なるが千九百十五年に比すれば

十八萬噸の減少なり。

○印度に於けるワイヤロープの輸入

印度統計局編纂の報告書に依れば一九一六年度に於ける英領印度のワイヤロープ輸入額は一、八八一噸にして此内英本國より一、七六五噸米國より一六五噸の輸入なり。

○伊太利に於ける機械類の輸入高

伊太利に於ける一九一六年及前二箇年間の主なる機械類輸入高左の如し。

	一九一四年	一九一五年	一九一六年
汽 罐	一、六二五噸	一、二四二噸	八一二噸
材料工具、	八、九八八	六、六九〇	二二、四八八
機關車及附屬品	三、一〇二	九六一	一、二〇一
電 氣 機 械	四、四四四	一、六六八	一、八一五
其他の部分品	二二、九四七	五、七七五	七、四九〇

○印度に於ける滿俺鑛の輸出

印度統計局發表の報告に依れば一九一七年三月中同國より輸出せる滿俺鑛は六三、八八五噸に達したり（昨年同期に於ける輸出高は二八、二〇一噸なり）然して本年三月迄の一箇年間に於ける輸出總高は六三一、〇八三噸（この内四五九、一五〇噸を英國に向けたり）にして前年同期間に於ける輸出總高は四七二、五六三噸（この内三八〇、九六七噸を英國へ向けたりなり）なり。

○和蘭領東印度諸島に於ける錫の輸出

和蘭の一商業新聞はバンカ錫と題する記事の中に次の如き表を載せ一九一五及一九一六兩年關の錫の輸出を一九一

三年のそれと比較せり。

戰前にありては販路を得る爲め一旦和蘭迄輸送しつゝありしも現今は現場渡しとか或は直接買手先に發送しつゝあり。表中ブリッソンの錫とはブリッソンの會社の販賣する錫の名稱なり。

行 先	一九一三年			一九一五年			一九一六年		
	和蘭より	蘭領印度より	蘭領印度より	和蘭より	蘭領印度より	蘭領印度より	和蘭より	蘭領印度より	蘭領印度より
和 蘭	二一八七	一噸	一噸	二一八七	一噸	一噸	二一八七	一噸	一噸
獨 逸	四六			四六			四六		
米 國	二、三六			二、三六			二、三六		
白 耳 義	一、三〇			一、三〇			一、三〇		
英 國	三、五			三、五			三、五		
佛 國	二、三九			二、三九			二、三九		
露 國	二、六〇			二、六〇			二、六〇		
日 本	一			一			一		
其 他	一八五八	二、六七	二、三九	一八五八	二、六七	二、三九	一八五八	二、六七	二、三九
計	三、五九八	同	同	三、五九八	同	同	三、五九八	同	同

○米國に於ける鐵及鋼の輸出入

米國に於ける本年四月迄の十箇月間の輸出入狀況次表の如し。

輸入の部

品 名	一九一六年四月迄の十箇月間	一九一七年四月迄の十箇月間
滿 俺 鐵	六八四	六八四

品名	一九一六年 四月	一九一七年 四月	一九一六年 迄の十ヶ月	一九一七年 迄の十ヶ月
銑素鐵	七五四	一、一〇八	四、五二六	九、三二一
其他の銑鐵	七九六	八二四	八、七〇八	二六、七七一
屑鐵	六、二一六	三、四六一	八、五七七	二、八八四
棒鐵	七五九	六〇	六、二〇〇	四、一〇八
建築用材	一、三九	六三	一、三三八	七五
輪鐵及帶鐵	—	—	四〇〇	—
合金を含まざるビレット	一、九五七	三、五三九	八、四四七	九、六六六
其他のビレット	一、二五九	四〇一	八、四四九	九、七九
軌條	四八三	五七七	四〇、〇〇七	一、七六六
薄板及厚板	一五七	九七	一、四六七	一、六三三
鐵力類	一七九	三四	六七三	六八
線材	三〇三	—	三、六九二	二、〇〇三
合計	二〇〇三八	四、八二三	二、〇五七	四、四九四

輸出の部

品名	一九一六年 四月	一九一七年 四月	一九一六年 迄の十ヶ月	一九一七年 迄の十ヶ月
銑鐵	一八、五二八	四、七三三	二〇、九三六	六、〇四三
屑鐵	一四、八七五	二、九六六	一三、九三三	二六、五七七
棒鐵	五、二〇一	三、四六七	五、七〇九	五、〇八四
線材	一四、五五五	一、八三四	一三、七九	二、四四四
棒鋼	五、六二五	七、三三八	四、六四五	六、五九
ビレット、インゴット及ブルーム等	八、八七六	一、六二九	七、〇三〇	一、五七三
ボールト及ナット	二、二六五	二、二九	二、六九四	二、四五四
輪鐵及帶鐵	二、六七	三、四七一	三、六六九	三、八八
蹄鐵	六九五	四九五	一〇、〇六	三、七三
切釘	一、七四	三三三	三、四四	三、八三
スパイキ	三、〇五七	八〇九	三、三三	一、五四六
線釘	一〇、八八四	六、九九九	九、九七〇	一〇、四七四
其他の釘	六三四	一、八〇四	七、八三三	一、五二六
鑄鐵管及附屬品	四、九二八	二、九四五	四、三三九	六、二〇六
鍊鐵管及附屬品	七、四九五	九、〇四九	一〇、一六六	四、〇八七

統計

統計

品名	一九一六年 四月	一九一七年 四月	一九一六年 迄の十ヶ月	一九一七年 迄の十ヶ月
暖房裝置	二二	四九	一、九七三	三、三五
軌條	三、四六六	三、四四〇	四、三一九七	五、三三四
亜鉛引鐵板	五、四八四	五、七三四	六、九六〇	七、四一五
其他の鐵板	三、二六二	六、一六七	三、三三四	三、九六七
厚板	二、〇六六	四、七六二	三、九三九	三、〇六六
薄板	九、二九	九、七五七	七、八八二	九、一三五九
建築用材	一、九九九	二、六四三	三、一八九四	二、八七二
鈎針金	二、七六九	一、三六三	二、七六九	二、七二九
其他の針金	二、〇四八	一、六四三	一、九三〇	二、〇七五
合計	六、四九〇	五、二七六	三、七三〇	五、六五九

○米國に於けるクローム鐵鑛の輸入(一九一六年)

米國地質調査局の報告する所によれば同國のクローム鐵鑛輸入高は一九一五年には七六、四五五噸一九一四年には四九、七七二噸なりしが一九一六年には一躍一四、六五五噸に達し今日迄の最大記録を印せり。然して以上の中、三三、九六三噸はカルドニアより六一、八五〇噸はローデシヤより輸入したるものなり國內に於ける産額も一九一六年では前三箇年の産額即ち一九一五年の三、二八一噸、一九一四年の五九一噸一九一三年の二五五噸の總額を遙かに凌駕して少くも四〇、〇〇〇噸の産出を見たり。

(The Iron and Coal Trades Review July 6, 1917.)

○英領印度に於ける鑛産

ビルマに於けるタングステン鑛石は一九一五年には二、六六〇噸なりしが一九一六年には三、八〇六噸に達し昨年一月より三月迄三ヶ月間の輸出は六一三噸なりしが本年は同期間に於て一、三五一噸を算するに至れり。

ビルマに於ける治外坑及シヤン産出の鑛石及その産額左の如し。

アンチモニー鑛	八、四二一噸	錫及タングステン含有鑛	四二八噸
鐵鑛	一六、〇八一	タングステン鑛	三四五
錫鑛	九四	亞鉛鑛	三、一九八

マイソアに於ける一九一五年より翌年に互る一ヶ月間の滿俺鑛採掘高は前年の一九、〇〇〇噸に對し二五、一二一噸にして輸出高は前年の一九、六二九噸に對し一八、四四七噸なり。クロム鑛の採掘高は一、三七六噸にして輸出せられたる額は二、一九六噸なるも前年の輸出額は各々四一九噸及び三二四噸なり。一九一六年の印度中央諸州に於ける治外坑の滿俺鑛産出額は四一、四七六噸なり。

○南米ペルーに於ける鑛産（一九一五年）

一九一四年及一九一五年のペルーに於ける石炭及銅の産額は左の如し。

石炭	一九一四年 二八三、八六〇噸	一九一五年 二八九、〇〇〇噸
銅	二七、〇九〇	三四、三一九

○南米ボリビヤの鑛産（一九一五年）

一九一三年より一九一五年に至る三ヶ年間のボリビヤに於ける各種鑛物の産額次の如し

アンチモニー鑛	一九一三年 六二五	一九一四年 一八六五	一九一五年 一七、九二三五
錫鑛	四四、五九七	三七、二五九	三六、三二四
タングステン鑛	二八三	二七六	七五五

○米國に於けるビーハイブ骸炭の製造高（一九一六年）
最近に發表せられたる米國地質調査局の統計に依れば一九一六年中に製造せられたるビーハイブコークスは三五、四六四、二三四屯にして前年のそれを超過すること七、九五五、九六九屯の多額に達し同國産額のレコードを破れり。一屯の平均價格も例年より高値を示し二、六九弗に達し三割の騰貴なり。一九一六年に於て作業中のビーハイブ式爐は一九一五年の四八、九八五基に對し六五、五〇五基にして休止中の爐は一九一五年の四四、一二五基に對し二五、九七六基なり。使用廢止せられたる爐の数は二、二六五基にしてその内一、八〇〇基はペンシルバニア及西バージニアに於けるものなりビーハイブ式を採用したる新設工場一もなく只在來の工場に於て一〇四基築造せられたるのみなり。骸炭の需要盛にして高値なる今日斯の如きは過去數年に比較するときは全く低きレコードといふべし。

(The Iron and Coal Trades Review June 29, 1917)

●輸出入貨物品別表(大藏省發行の大正六年九月外國貿易月)
表中鐵及鋼に關するもの左表の如し

第一 輸出貨物品別表

内國產品	大正六年九月		大正六年累計		大正五年九月累計	
	數量	價額(圓)	數量	價額(圓)	數量	價額(圓)
鐵塊及錠(斤)	五四六、七八五	一五八、八三一	二、七八八、二八三	三四六、五七五		
條竿及板(斤)	二、六二五、九五九	七六、九〇四	一七、八九一、五一	三、四四〇、二〇一		
線索(斤)	一、〇四一、七六七	二八〇、四七八	八、四三七、一四四	二、五二七、二八		
筒及管(斤)	六六、五三〇	二〇、一〇九	一〇、六七四、一七三	一、三四八、八六	四、一三三、二四一	五四四、一五八
鐵鍋及鐵釜		三五、八一五		二二〇、一三五		三三、三八四
鐵製品		一、四五四、一八一		一一、三五、七九三		六、三一五、九九六
人力車(輛)	六二三	三一、〇五〇	五、八三三	二四〇、五六四	六、二六	二二七、五七三
船舶(汽船)	六	一一、六六三、五〇〇	七三	六八、八一五、一六〇	三三	一、三〇六、〇九〇
機械同部分品及附屬品		一、一三八、〇六六		六、七二七、八七九		五、五七六、六九八
石炭(噸)	二〇六、四五六 二八九	二、〇二二、七三九 一〇、七九九	二、〇五四、四三〇 二、三八五	五八、八六八	一八、二七〇、一五四 二、七三三	一五、五三三、八五九 五、二四〇、三

第二 輸入貨物品別表

外國產品	大正六年九月		大正六年累計		大正五年九月累計	
	數量	價額(圓)	數量	價額(圓)	數量	價額(圓)
鐵鑛(擔)	五〇四、六五八	二六九、一三	三、六〇四、三七〇	一、六〇四、四三四	三、三一二、三五六	一、二〇二、八三五

外 國 產 品	大正六年九月		大正六年累計		大正五年九月累計	
	數	量 價 額(圓)	數	量 價 額(圓)	數	量 價 額(圓)
銑 鐵(斤)	四五、三八五、四五九	二、六五一、八一〇	二六三、五〇四、〇一六	一四、九九三、四七六	二八六、八一、三八五	一〇、〇四八、五三二
スビーゲルアイゼン(斤)			五一九、八八六	四一、一六六	一、五六六、七三八	八八、五七九
フエロマンガニース(斤)			六六五、九二〇	一一九、二八〇	二、七三三、三六八	三七六、一八六
フエロシリコン及シリ			六八九、九三八	一四一、二六二	二、七九五、六七三	三五六、九五九
コスビーゲルアイゼン(斤)			八六五、五六三	二六八、六八四	二、二五〇、〇三三	六三、七九〇
フエロクロム其	六〇、三三二	二〇、一六五	二、三八六、九五二	三四〇、九二〇	九、二九六、八四八	一、一七九、三九四
他不可鍛性鐵合金(斤)	一九、八〇八	三、六三〇	二、六三五	六九八	五九七、四〇九	六二、一二三
イレツト及スラプ(斤)	二、六三五	六九八	二、六三五	六九八	五九七、四〇九	六二、一二三
ケツグ及バンブースチル(斤)	三四、九九二、〇二六	五、八〇五、〇八九	二三八、二九八、三〇五	二九、三八四、二〇三	一六九、七七四、九〇六	一五、一〇八、九七四
條竿、テリアングル形鐵類(斤)	五、五〇六、四四二	八三八、二三〇	二四、一二五、二三三	三、四九六、八三七	一九、三二八、二五三	二、三七六、九二七
ワイヤ ロツド(斤)	六八、六六一、一九六	一四、一五一、七八六	三五八、八六八、四四五	五五、三三一、八七八	一九八、五三三、三三六	一五、八三四、一一五
板 (金屬を鍍せざる)(斤)	二二、五八五	五〇、八七五	六四八、四六六九	一、二五四、二一〇	七、四二九、五九八	一、〇五四、七七三
板 (電鍍したる)(斤)	四、五〇八、二八四	一、三九九、七五七	二六、二七五、〇五八	八、五二九、〇五三	五四、六二一、三三三	八、三〇一、一四一
板 (葉鐵葉鋼其他)(斤)	七八七、四四三	一六〇、五九七	六、〇七八、〇六四	一、〇五二、七四〇	三、九二二、二八六	四七四、四五七
線 (金屬を鍍せざる)(斤)	一、六八六、二一六	三三九、七二三	二二、〇九四、七〇三	四、二四二、六四二	二四、七八八、五五六	三、四〇〇、一七二
線 (電鍍したる)(斤)	八、二三四、九二三	五六〇、六二二	九二、一九七、六九七	四、一三五、二四七	三四、〇三六、〇〇九	一、一〇七、三六〇
屑 鐵 及 故 鐵(斤)	三六、五一四	一三、六九八	四七六、七七七	一二九、三二八	五三八、八八七	一二五、九六三
線 索 及 燃 合 線(斤)	三八二四、八四七	八二二、〇五〇	二八、〇七一、七四五	四、八七九、七一一	二二、三四八、九〇八	二、五七八、八五六
筒 及 管(斤)						

帶 及 箍(斤)	釘 類(リベス、パイキ)	鐵道建設材料(其の他)	電線支柱及同支架用材料	家屋橋梁船舶等建設材料	鐵道車輛及同部分品	自動車及同部分品	自轉車及同部分品	汽船(船齡十年以下)(隻)	同(其 他)(隻)	汽罐同部分品及附屬品	フューエルエコノマイザー(斤)	蒸 氣 機 關	瓦斯、石油、熱氣機關	ウオータータービン及ベルトン水車	發電機電動機類	縫 衣 機	金屬工及木工機械	紡 績 機	石 炭(噸)
一、四八三、四一〇	一、六八七、七三八	一、二〇七、七二四		二四四、八七一		九 九	一八一	二	六			二三五、七八一	一一、二〇八		一四〇、八五三	一四二、五六五	四八三、七三二	一、六三六、五八〇	四五、五二一 四、五七三
二九七、〇一二	二九三、九九二	一、二七三、六七二		四二、一五八	六二九、五五七	四〇三、七九二	九三、一九二	二二、〇〇〇	二、五一八、三六二	二四、五一八〇		七八、一七八	一一、九二二		八四、七八四	一二一、六六八	二八九、〇八六	五四一、七九三	七六四、二六四 二〇五、三五三
五、二九〇、七八七	一三、二二一、五六六	五七、五六六、三六八	二、九〇五	一、三六八、三八六		五七三	六七七	三	九			八六二、二七八	一四八、一七七		一、〇三〇、二二〇	七二一、四四〇	三、六五八、一九二	一一、三九五、五八三	四九一、六四七 三三、四二九
八八〇、三七四	二、三七二、三六八	五、七六〇、二三六	一、九八〇	二七四、三七三	一、三三一、二六五	一、七七四、一八六	五四四、四一一	一七一、〇〇〇	四、六八二、九六六	一、四三九、二六八	一六九、三八二	三三六、〇一九	一九〇、二九三	一六六、五八〇	七九二、八六七	五七九、七五〇	二、一八五、一六八	三、六八三、八八〇	五、四九九、八四四 一、〇一五、二一八
四、一二四、九九六	三、四四三、六七九	二、三二五、二〇六	三九、二六八	二、〇四六、〇二五		一五六	一、〇六一	一	一一		七九一、九八五	二二八、九五九	三〇四、四四七	二四八、五二〇	三七三、三二二	四三九、六二九	二、三七九、五七八	四、三六八、三〇三	四〇六、七八七 二二
四七〇、六六八	三、九九七、九六三	一八七、七七二	四、〇九六	三〇七、六四〇	一七〇、八五三	五二一、二七八	三五五、五二九	六〇〇	二、三二六、七二六	八六〇、八三〇	八〇、〇二九	九〇、一一七	一五二、九一九	一一五、二〇五	二二一、六一五	四三八、七七八	一、二二〇、七六〇	一、三二〇、二〇三	三、〇五〇、九一三 四四三

●大正六年九月中本邦鐵及重要金屬並石炭產額表（農商務省鑛山局調）

鐵の產出狀況

鑛山名 所在地

大正六年九月

大正五年九月

釜石 岩手(銑鋼)

四、五三一・八
一、一四〇・七二、四〇二・三
一、四二六・七

仙 人 同(銑)

二六八・四

三三六・四

栗 木 同(銑)

二四八・五

二四八・五

重要金屬の產出狀況

重要金屬の名

大正六年九月

大正五年九月

金

一四四、九五六

一四二、三五六

銀

四、三二四、一九三

三、二九六、七一二

銅

一一、二四九、五六八

一一、九五六、七三八

石炭の產出狀況

鑛山名 所在地

大正六年九月

大正五年九月

夕 張 石狩

一〇六、一六〇

九二、四六一

眞谷地 同

一四、五六九

一二、六七〇

新夕張 同

三〇、二三〇

二〇、七八五

空 知 同

二六、九六八

一四、九九〇

幾春別 同

六、七五三

六、六八二

幌 内 同

二〇、五六七

一四、五〇一

奔 別 同

一一、七二一

九、五八二

三井登川 同

一二、七九三

九、三〇四

大夕張 同

八、三八四

六、四二七

三菱美唄 同

二九、七二一

二七、六二五

入 山 福島

二三、五九二

二六、二五四

小野田	同	一八、三九六	一八、六一〇
内 郷	同	三四、八七一	三五、八三八
王 城	同	五、七六九	四、九五〇
好 間	同	二六、四九二	二七、二五三
隅 田 川	同	四、四七二	六、一三一
平	同	四、六四二	五、二四五
茨城無煙	茨城	一一、三七四	一三、一七六
重 内	同	七、九五七	四、二六四
山口無煙	山口	三、五一七	四、三七〇
茨 城	茨城	一九、二七七	四、二六四
千 代 田	同	四、八〇五	二、五九〇
松 浦	長崎	六、二八二	五、五二六
高 島	同	一七、九五六	一五、四八三
松 島	同	一七、五六九	一五、四八三
崎 戸	同	二六、四二〇	二三、七八七
香 燒	同	三、〇八〇	二、三九六
福 島	同	五、〇一七	七、六七二
沖ノ山	山口	二三、九九七	二二、七九九
大嶺海軍	同	六、六〇六	四、二六八
東 見 初	同	二一、四八八	一〇、三〇二
大 辻	同	二六、四四一	二三、三一五
高 江	同	一〇、八六四	一五、八五〇
新 手	同	一一、八一五	六、一八〇
新原海軍	同	二一、九六五	二五、〇一七
岩 崎	同	九、一五三	六、八一

御	新	三	大	明	三	鹽	木	金	大	赤	三	蜂	豐	二	忠	上	餘	豆	三	芳	下	三	方	中	大
德	入	好	之	治	井	頭	屋	田	峯	池	井	地	國	瀨	隈	山	田	田	井	雄	山	池	城	鶴	隈
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
七、九九五	二八、四二一	五、九〇二	七三、八六七	四〇、二二七	一六、六二八	三九、四八九	八、九三三	二一、〇四三	二三、九八五	八、六八九	五五、二二一	四七、六六一	四〇、五七〇	四〇、八五九	二六、二四一	一〇、六〇二	三六、〇三九	一四、〇四五	三三、八八〇	二三、七〇四	一〇、二三八	一四六、八六五	二二、六九三	一三、八三九	一〇、〇七四
八、六五四	二六、八一八	六、九一四	六四、八一七	三四、九八六	二〇、二七九	三四、一八二	一一、二〇四	二三、〇七六	二二、一四一	一〇、三一二	七一、三三四	四三、四二三	三九、二五二	六〇、八六二	二四、三五四	一四、四二五	三八、四四一	三三、三八三	二七、一七〇	二〇、二九二	一一、三六八	一四三、〇六八	一七、〇九〇	一〇、九二四	六、四一六

高	高	龜	旭	三	泉	平	野	字	新	姪	福	飯	杵	相	芳	岩	久
松	田	山		笠	水	山	田	美	目	濱	岡	塚	島	知	谷	屋	原
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	佐	同	同	同	同
三、六〇二	六、〇八九	五、三七一	七、〇一四	三、七三四	六、三一九	一一、三六二	三、一七七	三、四八九	六、二一一	二〇、三二二	八、九三一	一三、二八三	四二、六六一	三九、七八三	三五、〇九四	二〇、二七六	二、〇四五
五、二三八	五、〇六四	五、九八二	五、四七〇	四、七〇〇	四、八九二	八、一二四	二、八九四	三、九五一	四、三七五	一一、九五一	九、八三六	一二、六八〇	四二、四九七	三四、二一五	三九、四〇八	一一、六一七	四、一七二